

事前評価個表

整理番号	7
------	---

地域（地区）名	<small>あばしりとうぶ</small> 網走 東部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	網走市ほか10市町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>網走東部森林計画区は、北海道の北東部に位置しているオホーツク総合振興局の東半分の地域であり、世界自然遺産に登録された知床半島をはじめ、網走国定公園など自然公園が多く、森と湖と海が調和した自然豊かな地域である。</p> <p>また、地形は、オホーツク海沿岸部には平地が多く、西部に北見山地、南から東にかけては、阿寒、知床連山を源として、網走川・常呂川等の河川が、北見盆地等の平野部を経てオホーツク海に注いでいる。</p> <p>本計画区の総面積595千haのうち、森林面積は391千ha（森林率約66%）で、うち民有林面積は150千ha（全体の約38%）であり、そのうちカラマツ及びトドマツを主体とした人工林の面積は99千ha（人工林率66%）となっている。また、計画区内の林道延長は689kmで、公道等を含む林内道路密度は18.8m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>本計画区は全道で有数のカラマツ林業地帯であり、一般民有林を中心に広く植栽されている。年齢構成は8～9年齢に集中しており、主伐の時期を迎えているが、次代の主伐対象となる5～6年齢の資源が非常に少なく、偏った資源構成となっている。将来にわたり木材の安定した供給を確保するに当たって、今のうちから資源管理に留意する必要があると考えられる。</p> <p>また、近年、カラマツ材の需要が急増し、一時的に伐採が進む一方で、木材価格が十分に所有者に還元されなかったり、長引く不況から、伐採後造林されない伐採跡地が増加する事態となっている。</p> <p>このことから、地域の森林資源を循環的に利用していくために適切な森林整備を進めていく必要がある。</p> <p>このため、網走東部地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林整備を行うことによって、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：32,039ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：7,483,950千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 4.40 (総便益(B) = 62,707,542千円、総費用(C) = 14,221,229千円)</p>
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 網走東部

北海道
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	12,560,074	
	流域貯水便益	4,318,435	
	水質浄化便益	7,372,413	
山地保全便益	土砂流出防止便益	27,768,440	
環境保全便益	炭素固定便益	5,579,032	
木材生産便益	木材生産確保・増進便益	5,109,148	
総 便 益 (B)		62,707,542	
総 費 用 (C)		14,221,229	
費用便益比	$B \div C = \frac{62,707,542}{14,221,229} = 4.40$		

森林環境保全整備事業 網走東部地域（北海道） 概要図

